



第 32 号

令和 4 年10月 1日発行

富山県立魚津工業高等学校

同 窓 会

事務局 〒937-0001 魚津市浜経田3338

魚津工業高等学校内

TEL 0765(22)2577 FAX 0765(22)2578

URL <http://www.uozu-th.tym.ed.jp>

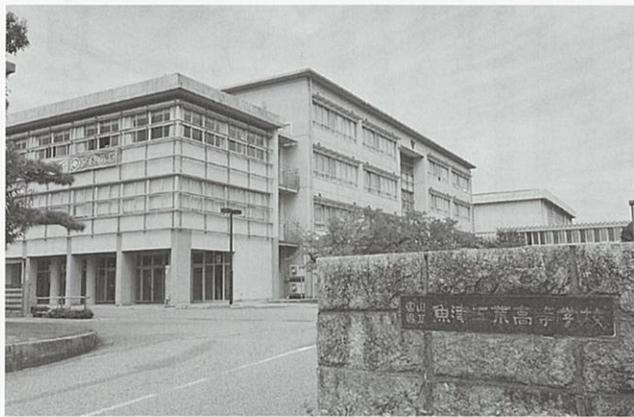
Eメール uozukogyo@ed.pref.toyama.jp



魚工創校六十周年を迎えて

同窓会長 島 津 豊

新型コロナウイルスが世界中に流行し、ワクチン接種も進んできました。しかし、新種のウイルスによる感染第7波で予断を許さない状況となっております。このような中、会員及び教職員関係者の皆様、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。また日頃より同窓会の活動にご理解、ご協力賜り感謝申し上げます。



校門から望む教室棟

本年が創校六十周年を迎えるにあたり、後援会・PTAの皆様から多大なるご支援、そしてご寄付いただきましたことに、重ねて御礼申し上げます。皆様からお寄せ頂いた寄付金は、学びに集中できる環境を整備するために食堂の空調設備整備、食堂券売機更新、トレーニング機器充実のために使わせていただきましたと思います。また今年度は至道館（格技場）の建て替えも計画されており、教育環境はより充実したものになります。創校五十周年に続き今回も記念事業の一つとして、同窓会名簿の発行を企画しました。皆様に「名簿作成賛助金ご協力」「賛助広告掲載ご協力」のお願いを致しましたところ、多大なるご理解とご協力いただきましたこと誠に感謝申し上げます。



前 庭

さて、令和に入り大きく社会は変化しています。コロナによる非対面の社会、そしてICTを活用した、デジタル活用の一層の進化など、全てにおいて技術の進歩は不可欠であり、本校への社会の期待はますます大きくなるでしょう。同窓会としても、会員一致団結して、本校を盛り上げていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしく願います。結びに母校の更なる発展とともに同窓会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げます、ご挨拶と致します。



創校六十周年を迎えて

校長 井川 忠 司

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。4月に校長として着任して約半年が経過しました。不慣れな点もありますが、新川地区にある唯一の工業高校として本校が担う役割の達成を目指し、努めていきたいと思っております。

本校は今年創校六十周年を迎えました。記念事業として、食堂の環境整備(空調設備設置及び券売機の更新)、教育環境の整備(トレーニング機器の充実)、記念誌「魚工60年のあゆみ」の発刊を行います。同窓会の皆様からは、多大なるご援助をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。また、10月29日(土)には、本校第一体育館を会場に、記念式典を挙行します。本校の発展を願いながら、創校60周年をお祝いしたいと思います。

式典後には、株式会社スギノマシン代表取締役社長 杉野 良暁 氏に記念講演をしていただきます。

さて、社会はこの10年間で大きく変化しました。情報技術が発展し、私たちの生活は大変便利になりました。また、自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの考え方や生活様式を大きく変化させ、学校生活にも大きな影響を及ぼし

ました。社会の変化とともに、本校においても、各教室へのエアコン設置、GIGAスクール構想に基づく生徒一人一台の端末配備とインターネット環境の完備、スマート専門高校実現のための最新機器の導入など、大がかりな教育環境の整備が行われました。特に、2018年3月には、学習指導要領が改訂され、生徒の学びは、一斉授業から、自ら考え課題を発見・解決していく主体的な学びへと進化しました。本校では、昨年度にグランドデザインを策定し、新しい教育課程の編成を行い、これからの教育活動の方向性を定めました。(HPに、グランドデザインを掲載しています。)そして、本校独自の取り組みを実施しながら、生徒の学びを深める教育活動を行ってまいります。

創校60周年を迎え、本校はこれからの時代の変化に対応しながら、地域産業を担う将来の「ものづくり」スペシャリストの育成と、自ら志を立てて行動し、協働しながらものづくりで社会を豊かにできる生徒の育成を目指し、教育活動に努めていきたいと思っております。

最後になりましたが、同窓会会員の皆様の健康と益々のご活躍を祈念するとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

20年位前に、本同窓会だより15号の職場紹介シリーズで、業務で開発したシステム(富士通株)を完全リタイアの後、半年後に友人の紹介でマイクロ波機器開発の会社に非常勤で技術アドバイザーとして勤務しています。着任当時は、商談が多くあり頻繁に出張や会議で忙しい時期でした。非常勤でもあり気分的には余裕がありましたので、以前から趣味の無線に興味があったアンテナ研究会(非営利団体「磁気ループアンテナ研究会」)に入会させて頂き、自宅で研究試作をしています。本研究会は、趣味のアマチュア無線で使用される小型の磁気ループアンテナ研究会です。

コロナ禍の影響で、通常の会議室でのミーティング開催ができなくなり、現在はパソコンを使ったネット会議で開催されています。時間は約3時間、さらに合同のアンテナ製作会というミーティングとあわせ毎月2回会議を行っております。ネット開催なので首都圏および全国からも参加、海外からも数名参加者がいます。以前は、個人的にアンテナ実験していましたが、研究会でいろいろとアドバイスを頂いたり、シミュレーションを行って評価して頂いたり技術的にもハイレベルな研究会だと思っています。以前から、

無線の小型アンテナ研究

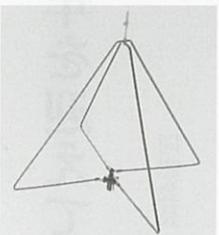
(株)ティ・シー・エス

第5回 電気科 大田 栄吉 (S42年3月卒)

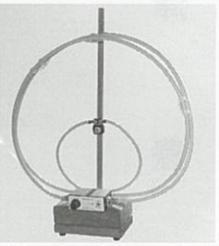


試作していたアンテナ(430MHz帯 クロス・デルタ・ループアンテナ)の試作品を評価中に、地元のアマチュア無線倶楽部に興味を持って頂き、私の開発したアンテナの製作会の講師を要望され、材料の調達と説明資料の準備を行い、2021年9月に地元地区センターで製作会を開催して頂きました。

参加者(20名)の皆様は組み立てから完成まで行って頂き大変好評でした。(参考:アンテナ製作会のアンテナ外観及び磁気ループアンテナの試作例の写真を添付)試作段階で研究会の先生に技術支援を頂きまして、先生の推薦もあって製作会の内容を雑誌に投稿する事になり、昨年7月に、10頁の記事が掲載、発行されました。アマチュア無線の専門雑誌「HAM JOURNAL」(2021年9月号)(隔月刊発行:株電波社)今回、初めて出版社とのやりとりをメールで対応し、大変手間がかかりましたが、リモートでの原稿の投稿と校正作業が良い経験になりました。今後、仕事とは異なる趣味のアンテナ研究ですが、楽しんで続けていきたいと考えています。



アンテナ製作会のアンテナ外観 [430MHz帯 クロス・デルタ・ループアンテナ]



磁気ループアンテナの試作例 [3.5MHz/7~30MHz受信用]

創校六十周年おめでとうございませす。また、同級生の皆様には益々ご清栄の事と心からお慶び申し上げます。

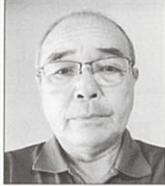
今回「同窓会だより」に執筆依頼を受け、「古希」も過ぎ、記憶もだんだん薄れて来ている自分ですが、ペンをとりました。魚津工業高校に入学したのは、半世紀も昔の昭和四十二年四月。入学の動機は、特に将来に夢とかがあつたわけでも無く、「とりあえず、魚津工業高校機械科」

「せめて、高校ぐらいは卒業しておこう」といった単純な動機だつたかと思ひます。専門教科には入学当初は衝撃もありましたが、物造りには多少興味があつたせいか日々新鮮な気持ちで授業を受けていた記憶があります。一方部活動は、ラグビー部に所属してました。当初、他の部活に所属していましたが、雨の中で楯円のボールを追いかけている姿になんとなく興味をひかれ入部。当時は現在のよう

うな、専門的な知識を持った指導者がいるわけでもなく、「ただただ走れ」、「目の前の相手を倒せ」、「相手を捕まえたら離すな」(笑笑)。同期の仲間も他の部活を退部してきた、言ってみれば素人の集まりでしたが、苦し

くも楽しい毎日でした。ラグビーを日本語にすると「闘球」だとか。当時の試合は「闘い」というよりは、喧嘩に近いものがあつたような気がします。ラックが解けると血だらけの選手、相手選手と殴り合い、審判からは警告を受けたり…。でも、自分を含め、選手一人一人が必死にボールを追いかけていた結果だと思ひます。三年時には県体で優勝できましたし、選抜チームではありましたが、北信越大会に出場しました。総じて、勉強はあまり好きではなかつたけど、学校に行つて同級生と色々な話をし、授業が終われば、辛いけどボールを追いかけてグラウンドを走り回る毎日でした。とにかく学校に行くのが嫌ではなかつた。むしろ楽しかつた三年間でした。

創校60周年に寄せて



魚津市スポーツ少年団 本部長
河崎 忠行 (S45年3月卒)

卒業後、六十五歳まで機械工として物造りに関わってききました。それも「とりあえず魚津工業機械科」が出发点です。また、現在子供たちのスポーツ指導のお世話をしています。自分のスポーツの原点も魚津工業ラグビーにあります。(感謝、感謝)

終わりに、魚津工業高校の益々のご発展と同窓生各位のご健康とご多幸を祈念いたします。

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、同窓会だより職場同窓会紹介シリーズに寄稿させていただける機会をいただき感謝申し上げます。

私は平成6年3月に卒業して以来、黒部峡谷鉄道株式会社に勤務していま

す。黒部峡谷鉄道となるまでの歴史は古く、大正時代、東洋アルミナムという会社がアルミニウム製造に利用する電力を確保するため、黒部川の電源開発に着手し、発電所建設に必要な資材や作業員の輸送のために計画された鉄道が原点となります。後に東洋アルミナムから日本電力株式会社に事業が移り、軌道敷設工事が開始され、着工から14年後に宇奈月から終点の樺平までの20.1kmが開通しました。その後、日本電力株式会社から日本発送電株式会社へ、そして戦後の電力再編に伴い、関西電力株式会社を引き継がれました。



夢・感動をお客様へ
黒部峡谷鉄道株式会社
米原 俊哉 (H6年3月卒)

開始し、昨年、創立50周年を迎えることができました。営業期間は、4月中旬から11月末の7か月余りで、冬期間は降雪のため運転休止となります。現在では、通常の営業運転の他にパノラマ展望ツアーや星空トロッコ、また冬期間には運転体験会や積雪の影響を受けない区間での冬期運行など、年間を通してお客様に楽しんでいただける趣向を凝らしたイベントを多数開催しています。「トロッコが止まっている冬の間は何をしているの?」と、よく尋ねられますが、冬期間は車両部門のメンバ―に加え、運転士や車掌、駅員が一丸となつて春からの営業再開に向け、機関車や客車の整備をしています。現在はコロナ禍の影響によりお客様は大幅に減少しておりますが、黒部峡谷鉄道の車窓からは、黒部峡谷の絶景や春の新緑、秋の紅葉など四季折々の峡谷美を堪能できますので、ぜひお越しください。ただければと思ひます。今後とも、お客様に「夢・感動」をお届けするために全従業員が一丸となって安全輸送とサービスの向上に努めていきたいと思ひます。

証いたしません」と書かれた便乗証を発行し、トロッコに乗車していただいていた。そして、旅客鉄道を専業とする会社として昭和46年7月1日に黒部峡谷鉄道株式会社として営業運転を

終わりになりますが、母校の更なる発展と、同窓会会員の皆様の地域社会での益々のご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和3年度 スマート専門高校事業

これまで、本校の実習用設備・装置については、他の県立学校と同様の予算を活用し、特に必要性の高いものから優先的に整備してきましたが、中には導入コストの面から、整備が難しい実習用設備・装置もありました。

一方、Society5.0時代を迎えるにあたり、産業界においては、技術革新の進展や、デジタルトランスフォーメーション等による設備のデジタル化の流れが一層加速することが予想されることから、国では、地域の産業を担う人材育成を図るため、職業系専門高校において、デジタル化に対応した産業教育設備の導入や、老朽化した既存設備の更新のための補助制度を設けました。

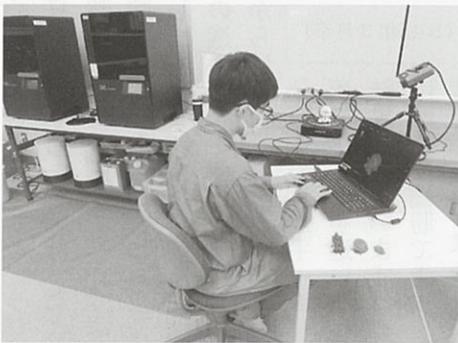
これを利用したものが、昨年度、本県で進められた「スマート専門高校事業」です。

本校では、この事業を最大限に活用し、昨年度末には、最新式のデジタル化対応設備を含め、各学科に総額二億円を超える、様々な実習用設備・装置を導入することができました。

今年度中にはこれらを活用した実習を導入し、より時代に即した人材育成を進める予定です。

機械科の最新設備

機械科では、この度のスマート専門高校化の取組みにより、旋盤や、自動高速切断機、光造形3Dプリンタ・スキャナ、ロックウエル硬さ試験機・電気炉、CAD用PC、エンジン性能試験機、メカトロニクス実習装置が導入された。実習で最も使用頻度が高い旋盤では、全てデジタルカウンター付きのものとし、ワシノ製に揃えることができたため、一斉指導がしやすくなった。また、最新の情報技術にも対応できるように、高性能PCを備えた実習室を増やし、3DCADによる設計や、CAMとシミュレーションを駆使した加工などに取り組みやすい環境が整った。特に、今まではなかった3Dスキャナと、光造形3Dプリンタが導入され、これら最新機器をどう活用でき



光造形プリンタ・3Dスキャナ



自動高速切断機

るかを生徒自身が考える授業も展開していくよう準備している。

これからの時代は、新しいものが増え、どんどん登場し、環境はあつという間にも変わっていくと考えられるが、その中でも欠かすことのできない基礎技術の習得と、新しいものに対応し、活用方法を考えるいく力をバランスよく育てていける充実した授業ができるよう取り組んでいきます。

電気科の最新設備

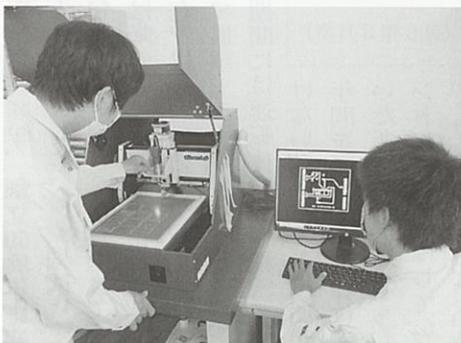
電気科では、プリント基板加工機、AC/DCパワーハイテスタ、三相パワーメータが新たな設備として整備されました。

今まで基板の作成には感光基板を使い、印刷した回路パターンを露光させ、現像し、エッチング液で銅箔を溶解し、洗浄するという手順で作

成を行っていました。プリント基板加工機を使うことで、回路データがなく、穴あけやカッティングまで自動で行うことができ、一枚だけの試作から、複数の作成まで、短時間で行うことができます。同時に、現像液やエッチング液の廃液の処分がなくなるなど環境に対してもメリットがあります。

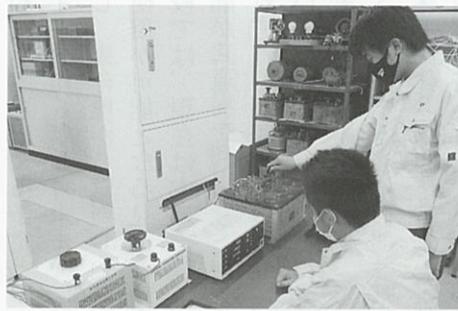
電気科生徒においては実習を通して使い方を学び、課題研究にて、各班の制御用基板を作成する際に活用していただきたいと思います。

AC/DCパワーハイテスタ、三相パワーメータは4台ずつ整備しました。電圧・電流・電力のみならず、力率、周波数、各数値のピーク値や積算まで表示することができ、各実習にて活用が期待できます。



基板加工機

アナログ計器で計測を行うことも大切ですが、最新のデジタル計器も使いこなし、就職後の業務に役立つよう勉強を重ねていってもらいたいと考えてます。



パワーテスター使用

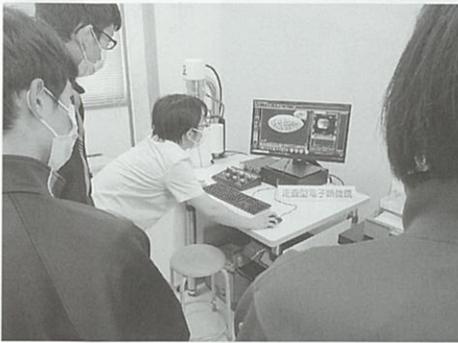
情報環境科 化学工業コース

国の「スマート専門高校」の実現で整備された分析機器が多数導入された。県内の県立高校では珍しい走査型電子顕微鏡(S.E.M)をはじめ、これからの社会で求められる環境分析に必要な分析機器も設置した。

これらの分析機器は校内学習だけに留まらず、地域社会に求められる高校となるため幅広く活用を広げていきたい。今年度は、中学生対象のオープンハイスクールでS.E.Mを使用した。花粉の観察や魚津水族館と連携した生体模倣技術を学ぶプ

ログラムを行った。化学の世界は肉眼で観察することができない材料も存在するが、電子顕微鏡を導入することで視覚化できるため、多くの児童生徒が化学分野に興味を持つきっかけにしたい。校内では、1年生の新設科目「ものづくり基礎」で全科にS.E.Mを活用した学習を実施する。

また、微量物質を見逃さず検出できるガスクロマトグラフ質量分析装置(GCMS)も導入した。今年度は、企業と連携して新たな学習の場を設け、環境問題として注目される化学物質を知り、実際に分析することで自ら考え、まとめ、相手に伝える学びの時間を取り入れた。今後は、その他の分析機器も活用し、生徒が主体的に環境分析を学習できる環境を整え、本校独自の産官学連携した環



電子顕微鏡

境教育の実現を目指して取り組んでいきたい。



ガスクロマトグラフ
質量分析装置

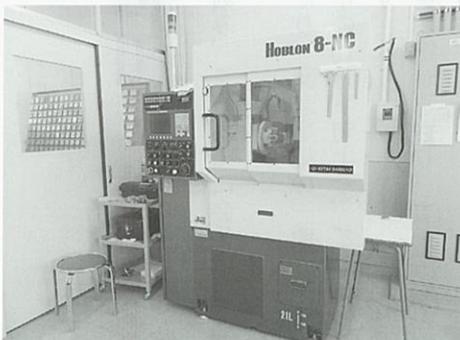
情報環境科 電子機械コース

電子機械コースは、機械・電気(電子)・情報・制御に関する分野の基礎的な知識と技術を総合的に学習している。本コースが保有する工作機械の老朽化や新しい学びを実現するための工作機械が十分でなかったため、国の事業である「スマート専門高校」実現に向けた整備で、これまで保有していなかった4軸CNC万能小形ホブ盤をあらたに導入した。導入した工作機械について紹介する。

本コースの課題研究は、決められたテーマに沿ってロボットを製作し、チームごとに性能を競い合うロボット競技大会を実施している。生徒のアイデアで部品を設計して加工、組

立し、制御することで各チームが工夫したロボットを製作している。これまでには製作過程に必要な部品の一部は、各チーム共通の市販品を利用してきた。これからは、生徒の主体的な学びを実現する環境を整えるために、できるだけ多く生徒自ら部品を加工できるようにしたい。そこで、今年度は4軸CNC万能小形ホブ盤を活用して、平歯車、はすば歯車からウォームホイールまで様々な歯車を加工できる環境を整えた。現在、生徒が工作機械の取り扱いを学習し、各チームのロボットに必要な歯車を製作できるように準備を行っている。

ものづくりの原点の一つに歯車がある。この装置の導入により、生徒の学びがより一層深まるように取り組んでいきたい。



ホブ盤

新武道場の建設始まる

昭和45年3月に完成し、以降半世紀にわたり利用されてきた現在の武道場「至道館」に代わる、新しい武道場の工事がいよいよ始まりました。

新しい武道場は、鉄骨平屋建てで延べ面積約530平方メートルを有しており、機械科情報環境科実習棟の東側に建設されることになっています。これまでと同様、管理室や柔道部、剣道部の各部室を設置するほか、新しく男女別の洗面所や器具庫を備える予定としています。令和5年3月末までには完成し、来年度からは新しい武道場の使用が可能となる見込みです。本校では、現在は主に柔道部、剣道部が武道場を利用していますが、それぞれの顧問・部員ともに、新しい武道場に寄せる期待は大いに高まっています。

さて、今年度、柔道部は県高校総体で団体3位となるなど躍進し、長野県で行われた北信越高校総体に出場しました。また、剣道部も、昨年度の県高校総体で団体ベスト8進出を果たし、どちらも日頃の練習量や練習内容に裏付けされた成果を残してきています。

引続き、両部活動の活躍にご期

待たいただきますようお願いいたします。



新武道場のイメージ

創校六十周年記念事業

「会員名簿」発刊

昭和37年の創校以来、半世紀の歴史を刻み、これまでに会員数も1万1千645人を数えるまでになりました。

同窓会では、創校六十周年の節目にあたり、記念事業の一環として、会員名簿を発刊することになりました。今年の10月下旬より、ご予約いただいた会員の方々のお手元に届くと存じます。

名簿の編集にあたっては、貴重な情報をお寄せ下さり、また広告の掲載や多大なる賛助を賜り、厚く御礼申しあげます。

会員の皆様の住所等は、封書やはがき等で調査をし、正確を期するよう努めてまいりましたが、返信いただけなかったもの、住所不明なものなどもあり、不備な点が多々ありますことを深くお詫び申し上げます。また、会員のご希望により住所等が不掲載となっている場合もあります。

記載事項の変更や訂正、不明者について消息をご存知でしたら、名簿に綴じ込まれてはがきにてご一報下さいますようお願いいたします。

なお、本名簿が会員の方々にとつて同級会等に有意義に活用されることを願っております。



創校60周年記念式典

- 1 月 日
令和4年10月29日(土)
- 2 会 場
本校第一体育館
- 3 日 程
 - (1) 記念式典
午前10時開始
 - (2) 記念講演
 - ・演題
「真心創り もの創り 未来創り
～グローバルニッチ
リーダーを目指して～」
 - ・講師 株式会社スギノマシン
代表取締役社長
杉野良暁氏

「創校六十周年記念事業」について

本校は、昭和37年4月、魚津高校から分離し、工業科単独高校として創立をしました。11月には浜経田の地に新しい校舎が建築され、地域産業の人材育成を担う学校として、期待を背負って出発をしました。卒業生はこれまで1万1千645名を輩出し、広く産業界等で活躍しています。創校六十周年記念事業の実施にあたっては、令和2年11月に準備委員会を立ち上げ、記念事業の実施内容について検討を重ねてきました。コロナ禍ではありますが、節目の周年記念であり、祝賀会を実施しないなどの若干の規模縮小や、広く地域や事業所等に募金を依頼せず、後援会、PTA、同窓会からの支援等で事業を行うことにしました。記念事業の柱は大きく分けて二つあり、一つは記念事業での教育環境整備、もう一つは記念式典の実施です。

教育環境整備では、県ではなかなか整備できない食堂とトレーニングルームの機器等の整備・更新をします。食堂の現行の暖房に不具合があることから新規にエアコンを整備し、食堂利用時の環境改善を図ります。広いスペースが気温に左右されず使えるようになり、授業や行事等にも積極的に活用できるようになります。また、食堂の券売機については、老朽化による不具合の多発と消耗部品の在庫が生産中止になっているほか、世界的な半導体不足で納期が読めないことなどから、6月には先行して更新し、運用をはじめました。

トレーニンングルームについては、運動部でよく使われるトレーニンング機器の更新や増設を予定しており、部活動の更なる活躍の一助とします。記念誌については、近10年の歩みについて重点的に記載し、本校の多くの歴史を物語る資料として発行します。

記念式典は、10月29日(土)、本校第一体育館において挙行します。来賓として知事、教育長、県議会議長等(代理を含む)をお招きし、感染症対策には十分留意しながら実施します。また、記念式典後に行われる記念講演では、講師を株式会社スギノマシン 代表取締役社長 杉野良暁氏にお願いし、お話をいただくことにしています。世界に通じる優れたものづくりを実践しておられる事業所の代表として、有意なお話が聴けるものと期待しております。

本校は、ここ10年で実習棟が全面改築になり、実習室では様々な予算により最新の機器・装置が導入され、教育環境の一層の充実が図られています。今回の周年記念事業を通して、10年の歴史を改めて振り返るとともに、これからの魚津工業高校が歩むべき道を考える良い機会にしたいと思えます。

一般に周年記念行事は100年、50年が大きな節目であり、60年はその次のレベルと言われますが、その時に在籍する生徒にとつては記念すべき大切な行事です。で、子供たちの記憶に残る良い創校六十周年記念事業にしたいと思えます。

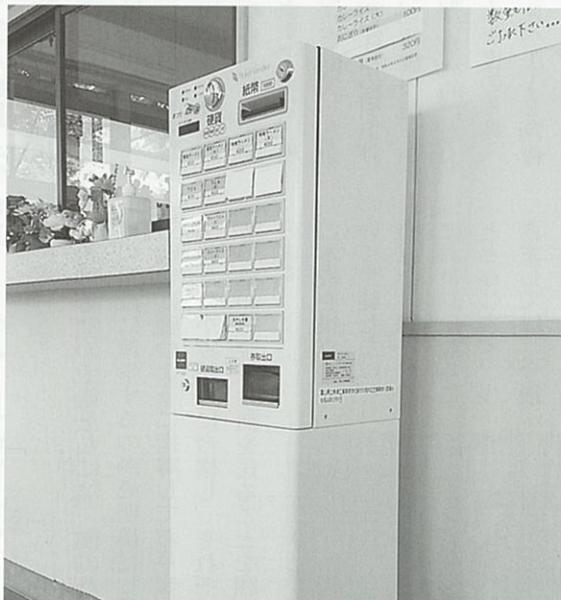
創校60周年記念事業予算概要

収入の部 (単位：千円)

科目	予算額	摘要
募 金	755	後援会賛助会企業、教職員等
積 立 金	5,500	後援会賛助会、PTA、同窓会
補 助 金	1,600	魚津市、黒部市、滑川市
合 計	7,855	

支出の部 (単位：千円)

科目	予算額	摘要
事 業 費	4,215	記念事業、教育環境整備
記念式典費	3,550	式典費、講演、記念誌等
事務局費	70	事務用品費等
予 備 費	20	
合 計	7,855	



食堂の新券売機

◆ 令和三年度 同窓会総会 ◆

令和3年度魚津工業高校同窓会総会が11月6日(土)午後6時よりスカイホテル魚津にて開催されました。例年は同窓会総会、懇親会を開催しておりましたが、今年度も新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止の状況を鑑み、懇親会を中止しました。また、関東支部や一般会員の参加を減らして規模の縮小をし、当日は感染症対策を徹底したうえで開催となりました。

総会では、島津会長(第15回電気科卒)の開会の挨拶に引き続き、高久校長が挨拶をされました。永年勤続者表彰では20年勤続の平野敏治先生、10年勤続の角井勇人先生、西尾俊久先生、竹橋剛志先生、大野誠先生に感謝状および記念品が贈呈されました。

続いて議題に入り、令和2年度会務並びに事業報告、同窓会一般会計・同事業会計・魚工展積立会計・全国大会特別会計・同窓会部活動助成特別会計の決算並びに監査報告、令和3年度事業並びに会務計画(案)、令和3年度同窓会一般会計予算(案)等が審議され、いずれも満場一致で承認されました。

最後に閉会の挨拶があり、令和3年度がスタートしました。



令和3年度 同窓会総会風景



生徒の進路希望と求人状況

【就職】この春の新聞社の来春採用状況調査で、本年度春の実績より採用人数を増やすと回答した企業は昨年度調査と比べて25%増の42%との報道がありました。新型コロナウイルス禍からの経済回復を見込み、採用抑制を転換させる企業が増える傾向になっています。また、現状の人員に「不足感がある」と回答した企業が56.7%となっており、初任給の引上げに踏み切る動きもみられ、「新規出店」や「事業拡大」に向け採用活動に意欲的になっています。このことから本年度の本校への求人は、令和3年度に比べ1.2割程度増加すると予想されました。7月から求人票受付が始まり、8月の中旬まで、本校へ求人依頼のあった県内企業数は、369社、求人数は629名であり、昨年同時期に比べて1割増となっています。これに対して就職希望者は全体の72.4%にあたる105名であり、有効求人倍率は5.99倍です。

就職希望者は8月の下旬には、ほぼ応募先を決定することになります。近年は、企業は意欲のある優秀な人材を求めており、選考試験の競争もさらに激しさを増しています。

生徒達は危機感をもち、夏休み中も履歴書の作成や作文・面接練習に励み、試験に備えています。

【進学】今年の進学希望者は26.9%で、昨年度に比べて18名減です。4年制大学と専門学校の希望者が13名減っているこ

とが要因です。

進学希望の生徒たちには、何のためにその学校に進学するのかを明確にした上で勉学に励むように指導しております。生徒たちが志望校に合格し、それぞれが思い描いた学校生活を送ることを願っています。

本校を巣立っていく生徒たちは、同窓会の諸先輩方にお世話になることと存じます。つきましては、今後とも厳しくも温かいご指導をよろしくお願い致します。



- 求人企業数・求人数

県内	369社(336社)	629名(558名)
県外	286社(248社)	546名(250名)
 - 就職希望者

105名	全体比72.4%(98名)	全体比62.4%
県内	103名(96名)	
県外	2名(2名)	
 - 進学希望者

39名	全体比26.9%(58名)	全体比36.9%	
大学	9名(15名)	短大	3名(4名)
能開大	10名(10名)	公共職訓	0名(4名)
専門	17名(24名)	未定	0名(1名)
- ※データは8月11日現在、()は昨年実績
今年度卒業予定者数 145名(昨年度卒業生徒数 157名)

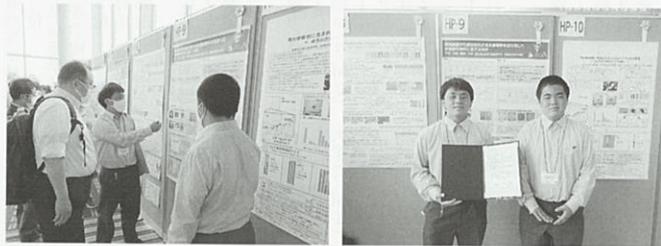
2022年度(第17回) 高校環境化学賞奨励賞受賞

環境科学部化学班

環境科学部化学班 3年情報環境科 升谷孝輝さん、3年電気科 脇坂叶夢さんの研究論文が一般社団法人日本環境化学会の高専環境化学賞で奨励賞に選ばれました。研究テーマは、「地域資源から排出される食品廃棄物を利用した光機能性材料に関する研究」です。高校環境化学賞は、日本環境化学会が高専生の環境保全に関する研究活動を表彰し、青少年の環境化学分野へ興味関心を高めるために設けられたものです。第30回環境化学討論会(環境化学物質 3 学会合同大会)においてポスター発表と授賞式が行われました。本討論会は6月16日に富山県で開催され、富山国際会議場において授賞式に参加しました。当日は全国から招待された11校の高校生が出席し、3時間ほどポスターセッションを行いました。互いの研究について議論しあい、同世代の学生が環境問題について自らの考えを深め合う良い機会になりました。また、環境化学討論会が会期中のため、多くの大学や企業研究者の方と研究内容について議論し、アドバイスをいただきました。以下、研究内容の一部を紹介します。

本研究は、魚津市で注目されるバイ貝に注目し、食材として利用された後の貝殻を利活用しました。回収した貝殻と酸化チタンを組み合わせて可視光線で応答する光触媒材料を調製しました。光触媒とは、太陽光のエネルギーで酸化チタンを活性化し、酸化チタン付近の有害物質を分解できる材料です。本研究の特徴は、より効率よく光分解するために酸化チタンに粉碎したバイ貝の貝殻をコーティングする工夫をしました。貝殻をコーティングする手法を複数検討し、最適条件を見つかることができました。これまでの研究では、有害物質のモデル物質として、本校の研究環境で分析しやすいメチルオレンジ水溶液を使用しました。最適条件で調製したバイ貝の貝殻をコーティングした酸化チタンは、可視光線を1時間照射し続けることで、ほぼメチルオレンジを分解できることを明らかにしました。

受賞した2人は残りの学生生活の間に、バイ貝の貝殻をコーティングした酸化チタンを使って、海洋施設や取水口に付着する海洋生物を取り除くことを目標に研究を進めています。海洋生物は、粘着成分を体内から排出して様々な場所に固定します。この粘着成分を今回開発した光触媒で分解し、海洋生物の付着を防止することを目指します。本研究では、国の事業である「スマート専門高校の実現」で整備された分析機器も活用しています。工業高校の特徴を生かした活動である新しいものを作ったり、分析したりすることを通して、生徒が考え、形にし、伝える力を育てていきたいと思えます。今後も、全国規模で開催される大会やコンテストへ積極的に参加し、生徒の活躍の場を拡げていきます。



北信越高等学校柔道大会に 出場して

柔道部

今年、本校は創校60周年を迎えました。創校と同時に誕生した柔道部ですが、その節目の年に創部初となる北信越大会に団体で出場することができました。昨年の夏からの新チームで日々錬磨を繰り返してきました。発足時は不安な面もありましたが、昨年度の秋大会から個人戦の入賞者を出すなど徐々に結果を残してきました。春季大会では団体3位に入り、また個人戦では4名が入賞するなど着実に結果を残してきました。高校総体は3年生にとって、部活動の集大成となる大会です。その大会に見事、団体3位、個人戦では4名が入賞し北信越大会出場を決めました。

ここまで多くの困難や苦労がありました。こうして結果がでたことに部員全員が非常に喜びました。北信越大会では、団体初戦の敦賀気比に勝利し、2回戦の佐久長聖には残念ながら敗北となりました。また個人戦でも北信越の壁を痛感しました。しかし、北信越大会に出場できたことは、生徒達にとっても貴重な経験となりました。

今後新チーム体制となりますが、来春に完成予定の新道場で新しい歴史を築いていくよう努力していきます。



